

百草蒔絵薬箆笥と飯塚桃葉(とうよう)

根津美術館（南青山） 24. 11. 02～12. 08



本展は、江戸時代中期に徳島の御用蒔絵師「飯塚桃葉」(初代・?～1790)が制作し、阿波徳島藩主・蜂須賀家に伝来した《百草蒔絵薬箆笥》と宗甫招鏡ほか六僧賛作《被錦斎図(ひきんさいず)》が2024年3月15付けで文化審議会から、「国の重要文化財」に指定された特別展としての開催である。

この展覧会では、「薬箆笥」が主役で、豪華な内容品全てを閲覧できるとともに、その最大の特徴である蓋裏の百草図を手がかりに、本作の制作背景を18世紀後半の博物学と美術の様相の中を探るもので、作者である「飯塚桃葉」の代表作をまとめて取り上げる初めての機会として注目がされている。この「薬箆笥」には、100種類もの植物や昆虫のモチーフが精密な蒔絵で表現されているのが最大の特徴で、蒔絵師や薬学史などの貴重な観点からの作例とされている。



《百草蒔絵薬箆笥》 1771年
1具 木胎漆塗



《被錦斎図》 1464年
紙本墨画淡彩